

【ナッシュ】

Hyoscyamus niger

高度のせん妄、StramoniumとBelladonnaのそれに似ている；低度のせん妄と交互に、Opiumのそれに等しい昏睡を伴う。顔面蒼白。

群れをつかむ（grasping at flocks）、寝具を掴む、腱膜下垂症になる。

持続性の咳、横になっていると悪化し、特に高齢者では座ると楽になる。

老人性痴呆；想像上のこと、毒殺されることなどを恐れる；その場にいない人や物が見える；馬鹿笑い。

全身の筋肉の痙攣；痙攣またはけいれん発作。

躁病はしばしば痴態を呈する。患者は自分を露出し、艶かしく歌い、話す。

毒を盛られることを恐れ、疑い深く、嫉妬深い。

常に周囲のものを凝視し、我を忘れる（発熱）。瞳孔散大；無感覚；小さなものが非常に大きく見える。歯垢；歯ぎしり。Rhus tox.とよく交替する（発熱）。

Hyos.はベラドンナと同様に錯乱するが、高度の錯乱と低度の錯乱が交互に起こる。ベラドンナでは暴力的なものが優勢で、静かなものや愚かなものは例外である。ヒヨスチアミンではその逆である。愚かな眩暈型が優勢で、時折暴力型が現れる。ベラドンナ患者の顔は赤く、Hyos.患者の顔は青白く沈んでいる。Hyos.の患者は衰弱しており、衰弱は増大する。虚弱のため、激しいせん妄の発作は長く続かない。ベラドンナやストラモニウムではこのようなことはあまりない。Hyos.の患者は、最初は激しいせん妄の発作を起こすが、次第に軽快し、頻度も少なくなり、低いせん妄や愚かなせん妄が増加し、完全に意識がなくなる。

腸チフスの症状が急速に現れる。舌は乾いて扱いにくくなり、感覚は混濁し、たとえ患者を奮い立たせて質問に正確に答えさせることができて、すぐにまた昏睡状態に陥る。このような無意識の状態は、目を大きく見開き、部屋中を見回しても、群れ以外は何も見えず、その群れに手を伸ばして掴んだり、ベッドの衣服をつまんだり、不明瞭につぶやいたり、何時間も言葉を発しなかったりする。歯はタルミで覆われ、下あごは下がり、便と尿は不随意に出る。このように、心身の大きな衰弱の最も完全な姿を示す。これは、腸チフスや腸チフス性ペニゅモニア（私が知る限り最良のレメディである）、猩紅熱、その他の病気によく見られるHyos.の姿である。素晴らしいレメディだが、ベラドンナのように広い範囲に作用するわけではない。

Hyos.は、これまで述べてきたような急性の疾患において優れたレメディであるだけでなく、慢性躁病においても最も有用なレメディのひとつである。急性の譫妄が躁病と呼ばれる定型に移行した場合にも、このレメディはわれわれの主な頼みの綱のひとつである。ベラドンナよりも、このレメディの方がよく使われる。また、急性疾患の後に躁病が発症した場合にも、このレメディ

は依然として私たちの主要なレメディーのひとつである。このような形の躁病では、その使用を必要とする非常に顕著な症状がある。たとえば、患者は非常に疑い深く、あなたが自分に毒を盛ろうとしていると考えたり、何か陰謀を企てていると考えたりして、薬を飲もうとしない。他人を妬んでいる、あるいは発作の最初の原因は嫉妬である。また、躁病はしばしば淫乱な形をとる。患者は自分をさらけ出し、露出し、情欲的に歌い、話す。ヒヨスシウムスは、このような躁病に効くすべてのレメディーをリードしている。

このレメディーの急性せん妄の患者のように、患者は穏やかな症状と暴力的な症状を交互に繰り返す傾向がある。あるときは、誰からも隠れてしまうほど穏やかで臆病であり、またあるときは、手の届くところにいる人を殴り、争い、引っ掻き、傷つけようとするほど暴力的である。

ヒヨスリカムスの躁病患者は一般に虚弱であるため、このレメディーは特に加齢による虚弱に起因する躁病に適応する。もちろん、症状によって示されるのであれば、すべての年齢で有用である。

このレメディーの神経症状は、大脳の症状だけにとどまらず、全身に及ぶようである。H.N.ガンジーが言うように、「目からつま先まで、全身の筋肉が痙攣する」。これは、てんかんであるか否かにかかわらず、けいれんに対するこの薬の使用に関する彼の主な指示のひとつである。痙攣は一般に間代性である。Nux vomicaやStrychniaのような強直性ではない。Cicuda virosaのような激しい痙攣はないが、全般的な痙攣は、腸チフスにおける腱膜下垂症のように、痙攣に特徴的である。

Hyos.は、横になると悪化し、座ると楽になる乾性咳嗽に非常に有用である。ここでも特に老人に有用である。肺炎に対する有用性についてはすでに述べた。特に強調したいのは、腸チフスにおける代表的なレメディーであるということである。少なくとも私にとっては驚異であった。腸チフス型のスカラチナにも非常に有効である。そしてRhus tox.を補完するものである。そのような場合には、私はこの2つを交互に使うことはない。しかし、感覚減退やせん妄が硫黄の手に負えない場合は、硫黄を1日か2日中断し、Hyos.を与える。これは、私がこれまでに犯した唯一の交互作用である。ハーネマンが発熱時にブリオニアとルスを交互に使ったのと同じである。

Dr.N.M.Choudhuriのケース

チフス

9日目 患者は仰向けに横たわり、目を大きく見開き、凝視して動かない；意識不明；顔は赤く、唇は黒く、舌は乾いて黒い；下あごは垂れ下がる；尿は不随意性で、シーツに赤い砂の大きな筋が残る；皮膚は乾燥；脈拍は200以上。ヘリング医師が診察に呼ばれ、リップエ医師は脳の麻痺を心配した。リップエ医師は赤い砂を発見する前に、アヘンかヒオスカ迷っていた。そして砂はヒオスを指した。アヘンには目を半分閉じた状態でいびきをかくという症状があり、より一般的であった（Lyc.は尿に赤い結晶が見られ、下あごが下がる。） Hyos.200、タンブラー半分の水に1滴。スプーン数杯を与えると、6時間後には患者は発汗し、顎は閉じ、危険はなくなった。